

# 幕下は香若丸か剣将か

四日目を終えて、勝間田部屋の雪若丸と麻縄部屋の剣将が4連勝として千秋楽で優勝を争うことになった。

雪若丸は元横綱鞍ノ城枠で十両付出しでデビューしたものの一場所で幕下に陥落、先場所も2勝3敗と負け越し。勝間田親方もこれにはやきもきしていたようで、「あいつは力があるんだが、気持ちの問題だな。稽古で克服するしかない！」と場所前に猛稽古に励ませたとか。それが功を奏してか4連勝を飾り優勝まであと一つ。優勝して番付運良ければ一気に十両復帰も見えてくるだけに千秋楽は大一番になる。

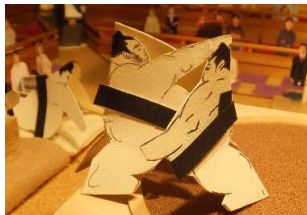
一方、剣将は先場所三段目で5戦全勝で優勝して幕下昇進。直風から改名して臨んだ今場所も好調を維持して4戦全勝。千秋楽の一戦は今から楽しみだ。

その剣将に敗れた花形だが、香具山親方が期待を寄せていただけにこの1敗にはがっかり肩を落としていた。「花形！しっかりと行け！」と檄を飛ばしたが惜しくも勝利を逃したが、千秋楽勝って夢力に次ぐ関取に近づいていきたいところ。

雪若丸に負けた西安はあと一番勝って新十両を確実にしたいところ。ただ、西勢ノ里が十両からの陥落が濃厚なだけに新十両になっても西勢ノ里と同様に体重問題で苦しみそう。春日根親方に奇策はあるのか。(錦風)



花形●(寄り切り)○剣将



西安●(寄り切り)○雪若丸

# 三段目ノ序の口

三段目西筆頭、育成会初優勝を目指す黒田が西渡海を寄り切りで破り4連勝。先場所の三日目から連勝を7に伸ばした。前の2場所でもともに4勝を上げており、ここに来てようやく本来の力を開放してきたようで香具山親方も「奇れ、左差せ」といつも以上の声援を送っていた。これでもちろん優勝とダブルで育成会卒業を果たしたいところだ。

対するは、九十九の影の実力者桜庭。初土俵は141回場所早いで黒田よりも1場所早いデビューだが、香具山勢とはこれまで幾度となく対戦を重ねてきたライバル同士である。これまでの対戦成績は1回のみで桜庭が勝っている。千秋楽決戦、最後に笑うのはどちらか、果たして結果はいかに？

序二段は3連勝が3人で、その内で武乃花と戸田が対戦。戸田が左を差し勝ち正面土俵に寄り切って4連勝。



西強●(寄り切り)○島内

内も一人の3連勝の島内は1敗の西強との一番。先場所は序の口で差強しから寄り切りに下



武乃花●(寄り切り)○戸田



豪剣●(寄り切り)○桜庭



西渡海●(寄り切り)○黒田

しりベンジ。千秋楽は当然直接対決となるが、戸田が松山に続いて序二段優勝を成し遂げるのか、はたまた、島内が初優勝をもぎ取るのか楽しみ対戦となる。

松ヶ神部屋の那智乃風は3勝目をかけての鹿電馬戦。同部屋の松ノ藤がすでに負け越しているだけに松ヶ神親方としてはどちらかは勝ち越してほしいと願っているだけに、千秋楽の相撲が大事な一番となる。

序の口は、3戦全勝同士の江戸の愛と郡山の対戦。ここまで相手に相撲を取らせない完璧な取り口をみせている郡山が体力を生かした相撲で圧倒し寄り切りに退け、序の口で唯一の勝ちっぱなしとなった。郡山が千秋楽に勝てばすんなり優勝が決まるが、負けるようならば当然決定戦になる。

気になる対戦相手は1敗勢の自力岳、桃薩摩、東灘、亀風のいずれかとなるだろうが、これまでの相撲を見る限りでは郡山の優位は動きそうにないだろう。2勝2敗で千秋楽に勝ち越しをかける中では、煌天鷹、晴乃島、姫野などが来場所に生き残りかけることとなった。



郡山○(寄り切り)●江戸愛



英坂田●(寄り切り)○自力岳



# 古今東西 紙相撲豆知識 53 2差からの逆転

生駒山が美空富士、若乃嶋らに星2つの差をつけて十日目迎えるが、美空らが追いついて決定戦で逆転する可能性はあるのか。

過去に2差を逆転した例はわずか3回しかなく(8回、72回、76回、もしも2差逆転となれば、伝説の大混乱場所と言われている第76回場所以来、30年振りの大逆転劇となる。

- 第76回場所は九日目を終えて、
- 1敗 横綱扇灘、剛脇桜豊王
  - 2敗 前頭千代鈴、剛勇山
  - 3敗 大関綱島、関脇輝雄山、前頭貴錦、鐘峰、高熱山、西ノ海、照阿黒、昇の島、

と星2つの中に12力士が森く大混戦。しかも扇灘と桜豊王が共にまさかの2連敗。千代鈴、剛勇山も敗れ、3敗組で2連勝した綱島らと併せて6力士が8勝3敗で優勝決定戦を行うという壮絶な場所となり、鐘峰が6勝3敗からのまさかの逆転優勝を果たした。

- 第72回場所は、
- 1敗 横綱岩湊
  - 2敗 前頭円海山
  - 3敗 横綱扇灘ら11力士

という状況から岩湊、円海山が連敗し、6勝3敗から2連勝して8勝3敗とした扇灘と平幕の尾結との三つ巴を扇灘が制しての2差からの逆転優勝劇となった。

全勝力士が2敗力士に逆転されたのはわずか1例、遥か昔、今から65年前、昭和29年3月の第8回本場所横綱富士昇が9連勝から2連敗し、7勝2敗から2連勝した大関田子ノ浦に決定戦で敗れた1例のみ。

このように生駒山優勢はデータ的には圧倒的だが、何が起るか判らないのが紙相撲。十日目、千秋楽も目が離せない。